

北脇遺跡出土の銅印について

調査名 北脇遺跡第5次発掘調査
調査期間 平成18年11月27日～平成19年1月10日
調査面積 476 m²
調査原因 集合住宅建設に伴う発掘調査
調査主体 甲賀市教育委員会

遺跡の概要

北脇遺跡は甲賀市の北西部、水口町北脇に位置します。遺跡の南方には野洲川が流れ、それに沿うように東海道が東西に走っています。山の多い旧甲賀郡の中では比較的広い平地に恵まれた地域です。

周辺には、東・西^{かんすつか}罐子塚古墳、塚越古墳などの古墳のほか、古墳時代中期から後期の植遺跡や古墳時代後期から奈良時代の下川原遺跡などの集落遺跡があります。また、近江地域で最古の須恵器窯である泉窯や、平安京をはじめ西日本一円に^{りょくゆうとうき}緑釉陶器を供給した春日峰道窯・春日山の神窯なども知られています。

さらに、旧東海道は平安時代の齋宮への道として利用され、それ以降、伊勢道として賑わい、重要な街道と位置づけられます。

また、今回の調査地の西側隣接地を甲賀市教育委員会・滋賀県文化財保護協会が発掘調査（北脇遺跡第4次調査）を行い、9世紀後半から10世紀前半（平安時代前期から中期）の鍛冶工房が見つかるなど、古墳時代以降、北脇遺跡の周辺は近江の中でも重要な地域であることがわかります。

なお、今回の北脇遺跡第5次発掘調査は、集合住宅の建設に伴い甲賀市教育委員会が実施しています。



発掘調査の概要

発掘調査では、調査区の北側を中心に柱穴や溝などの遺構を検出しましたが、遺構の残存状況はあまり良くありませんでした。また、調査面積が狭いこともあり、明確な建物跡などは確認できていません。

銅印が出土した遺構は、第1トレンチの北端部で検出したSP0104です。

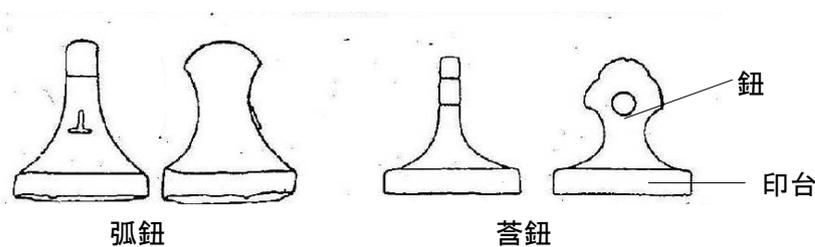
SP0104は、直径約30cmの円形の柱穴で、残存状況は非常に悪く、深さは3cmほどでした。銅印とともに須恵器の破片が出土しています。

出土銅印の形状・材質など

銅印の形状は、印面のある印台部とその上に押印の際に^{つま} ^{ちゅう} 鈕部から形成されています。古代の印鑑はほぼ同じような形態をしており、鈕の形状によって、「弧鈕」「^{こちゅう} ^{かんちゅう} 蒼鈕」に区別されています。

今回出土した銅印の形状・材質などについては、以下の通りです。

1. 法量 印面：縦3.5cm×横3.5cm
銅印の高さ：3.0cm
重さは64g
2. 材質 青銅製で鋳造品。
3. 印面の文字 文字数は4文字。「徳西庶家」
4. 鈕の形式 ^{かんちゅうゆうこう} 蒼鈕有孔 鈕の頂部は平滑で分銅形の側面形態です。



鈕の形状と部分名称(左が無孔、右が有孔)

銅印はいつの時代のものか？

- ① 鈕の形状から考えると、平安時代に相当すると考えられます。
- ② 今回の調査地から出土している須恵器や緑釉陶器などの年代は9世紀～10世紀のものであります。

以上のことから、今回出土した銅印は平安前期(9～10世紀)のものと考えられます。

銅印の用途は？

- ① 「家」という文字が使われています。

「家」という文字を用いた印の類例としては、「内家私印」や「積善藤家」(両方とも古文書に印影として残されている。光明皇后の私印として用いられていた。)、

村家印」(栃木県日光市男体山山頂遺跡出土)などあります。また、「家」ではありませんが、「申田宅印」(鹿島神宮所蔵)という例もみられます。これらの印は私印として使用されていたと考えられています。

② 古代の印影や現存する類例で、国印や郡印などの公印、寺院などの寺印などには「家」の文字を使用したものがみられません。

③ 平安時代に編纂された『類聚三代格』^{るいじゅうさんだいかく}に収録されている太政官符に、印鑑の大きさに関する規定があり、私印は1寸5分(約45mm)を超えることのないよう定められて、出土品や伝世品もこの規定にほぼ準拠しています。

以上のことから考えて、今回出土した銅印は、印面の大きさや文字内容から私印である可能性が高いと考えられます。

「徳西庶家」の意味は？

① 銅印が私印であると考えると、最後の文字が「家」であることから、「〇〇家の印」という意味で用いられたと考えられます。

② 「庶」という文字には、「もろもろ」などの意味のほか、「嫡子」に対する対義語で「庶子」という意味もあります。したがって、「本家」に対して「庶家(分家)」という意味になります。

以上のことから「徳西庶家」の文字が示す内容は3種類の解釈が考えられます。

A 「徳西家の庶家」

文字通り最も単純な解釈です。ただし、「徳西」という氏族名は古代に遡っても見当たりません。また、北脇遺跡周辺の地名にも「徳西」は確認できません。

B 「徳〇西△の庶家」

古代の私印の用例として、人名や氏名、氏名の一部を用いるものがあり、「徳西」が氏名の一部または、姓・名それぞれ一文字ずつを取ったもので可能性が考えられます。

C 「徳地一族の西庶家」

中世に書かれた「山中文書」に「徳地」という氏族名に確認でき、今回の銅印の発見によってこの一族の由来が古代まで遡る可能性があります。また、現在の泉・北脇周辺に「徳地」姓が多いこと(27件。水口全体では32件「2005年版ハローページ」)から、「徳地」姓を名乗る一族が、調査地周辺に居住していたことが考えられ、「徳西」の「徳」が「徳地」を「徳西庶家」は徳地本家に対して、西側に位置する庶家(分家)を指すことも考えられます。

まとめ

今回の調査で銅印が出土したことは、非常に大きな意味があります。

- ① 今回出土した銅印は、滋賀県内で発掘調査により出土した資料としては6例目ですが、4文字のものは県内では初の出土です（表1参照）。
- ② 北脇近隣に青銅製の私印を所有していた古文書などには記録されていない逸名の有力豪族が存在していたと推測できます。
- ③ 西側隣接地の北脇遺跡第4次発掘調査で見つかった鍛冶工房との関連性や近隣の春日における緑釉陶器の生産と連動する可能性が考えられます。

以上のように、今回、銅印が発見されたことで、北脇周辺の歴史上、注目度が上がることは間違いありません。

ただし、今のところ、調査地周辺の発掘調査事例が少ないため、遺跡の全体像をうかがい知ることはできません。銅印のもつ意味やまだ見ぬ氏族の名前の解明も含めて、今後の調査の進展に期待したいと思います。

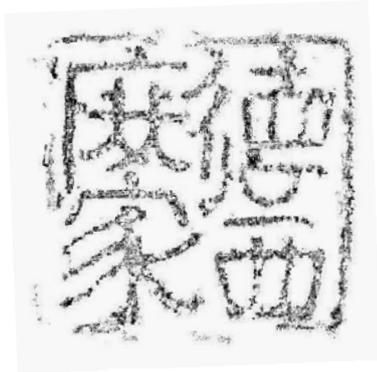
表1 滋賀県内における古代の印章一覧

印面の文字	残存 形態	出土遺跡	残存 高	印面 (縦)	印面 (横)	鈕の形状	印面 の形	輪郭	材質	備考
徳西庶家	出土	北脇遺跡(甲賀市)	30.0	35.0	35.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	9~10 世紀
□(善カ)	出土	大谷南遺跡(大津市)	25.0	30.0	30.0	欠損	方形	有郭	青銅	10世紀
□	出土	大手前・御所内遺跡(近江八幡市)	45.0	33.0	34.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	平安時代前期
乙貞	出土	服部遺跡(守山市)	42.0	33.0	33.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	8世紀後半
内真	出土	辻遺跡(栗東市)	37.0	32.0	32.0	弧鈕有孔	方形	有郭	青銅	9~12 世紀
朝	出土	鴨遺跡(高島市)	38.5	30.0	30.0	弧鈕有孔	方形	有郭	青銅	9~12 世紀
比叡社印	伝世	日吉大社	47.0	43.0	40.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	
延暦寺印	伝世	延暦寺	45.0	52.0	52.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	
延暦政所	伝世	延暦寺	46.0	53.0	51.0	蒼鈕有孔	方形	有郭	青銅	
駿河倉印	伝世	宝巖寺	65.0	60.0	60.0	弧鈕有孔	方形	有郭	青銅	

【一般公開】

出土した銅印を1月16日(火)より2月3日(日)まで甲賀市立水口歴史民俗資料館(曳山の館)のロビーで一般公開します。(月曜日休館 入館無料)

水口歴史民俗資料館 〒528-0005 甲賀市水口町水口 5638 TEL 0748-62-7141



銅印の印影



銅印の印面



銅印の側面



印面の上部を示す「上」の線刻

図1 北脇遺跡出土の銅印



大谷南遺跡出土



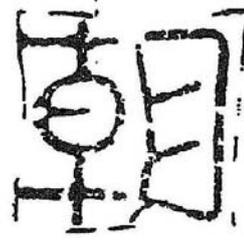
大手前・御所内遺跡出土



服部遺跡出土



辻遺跡出土



鴨遺跡出土

図2 滋賀県内出土の銅印



第1トレンチ全景（北から）



SP0104 銅印出土状況